

ジャマイカ任地での活動

スクールオブホープ ポートアントニオ校

知的障害養護学校(28名) ろう学校(7名)



作業学習 1

(重度重複障害児童・生徒の指導)

はりこ ~ 新聞紙を利用して ~



作業学習 2

(重度重複障害児童・生徒の指導)

リサイクルペーパー ~ 使い古した紙を利用して ~



作業学習 3

(重度重複障害児童・生徒の指導)

三角クラフト ~ 雑誌を利用して ~



個別指導 1

(自閉症児童・生徒の指導)

マッチング ~ 教室環境を構造化した中で ~



個別指導2

(自閉症児童・生徒の指導)

絵画指導～興味関心のある活動を生かして～



個別指導3

(自閉症児童・生徒の指導)

編み物・三角クラフト ~ 単純作業の繰り返しを利用して ~



図画工作の指導 1

チーム・ティーチング



図画工作の指導2

共同宿泊学習(2泊3日)

～ 巨大人物画とオリジナルTシャツ作り～



図画工作の指導3

~バス停に壁画(人物画)~



作品展示・販売会

作業学習や個別指導、図画工作の指導を通して作った作品



教師・保護者向けのワークショップ

～ 学校と家庭の連携つくり～



スペシャル・オリンピック



異文化交流会

～ ジャマイカと日本の文化 ～



現地教員向けのワークショップ



ジャマイカ養護教育の問題点

- 教育的アプローチの問題
(教授法による教育方法—暗記、模倣)
 - 教育を受ける機会の減少
(国語と数学への重点化、情操教育の削減)
 - 教師のアイディア不足、教材の不足
(単調な活動の繰り返し)
-

ワークショップの目的

- (1) 児童生徒主体の授業を展開することで、児童生徒が生き生きと活動する様子が見られるようになり、意欲的に活動できるようにする。
 - (2) 教員が障害についての理解を深め、より適切な指導を行うことができるようにする。
 - (3) 教員に対してモデル授業を展開することにより、効果的な教材教具の活用法等の習得、教員の指導力向上を図る。
-

ワークショップの内容

- 1 チーム・テーチングによる模擬授業
(図画工作を中心とした情操教育の授業)
- 2 日本の教育システムの紹介、教材の紹介
- 3 図画工作のアイデア提供 (体験)

(対象) 隊員の任地で勤務する教師

首都に勤務する教師 (10 名程度)

(回数) 隊員の任地校 (4 回) 首都 (3 回)

「図画工作」模擬授業1 マンデビル校(新聞紙遊び)



「図画工作」模擬授業2

スパニッシュタウン校(折染め)



「図画工作」模擬授業3

ポートマリア校(パラシュート)



「図画工作」模擬授業4 ポートアントニオ校(はりこ)



「図画工作」模擬授業5～7

首都 キングストン校(三角クラフト)



ワークショップの結果

- JAMRとの連携が深まった。
 - 日本の教育方法(チーム・テーチング)が取り入れられた。
 - 養護教育の課題が明確になった。
教員の児童生徒の障害に対する理解をより促すこと。
児童生徒の実態に応じた支援を展開し、教材教具を効果的に活用すること。
児童生徒の実態に応じた教育課程を編成すること。
-

公式「自閉症児者のためのワークショップ」

(対象)

自閉症児童生徒(10名)保護者(10名)

担任、地方と首都校のスーパーバイザー(10名)

(内容)

5回の段階を踏んだ、継続的なワークショップ

1 模擬授業

2 「自閉症」に関する講義(障害特性、実態把握、指導方法、個別の指導計画の作成、教材の工夫など)

3 研究授業(最終回) - 現地の教員が4回のワークショップを踏まえて、最後に授業を展開する。

4 評価、認定証授与

自閉症児者のためのワークショップ パート1 (2004.10.7) 小麦粉粘土と形遊び



自閉症児者のためのワークショップ パート2 (2004.11.4) 色のマッチングと形合わせ



自閉症児者のためのワークショップ

パート3 (2004.12.9)

ステンシルとクリスマスツリー作り



自閉症児者のためのワークショップ

パート4 (2005.1.13)

体の部位を知ろう(マッチングと着せ替え)



自閉症児者のためのワークショップ

最終回(2005.2.17)

現地教員による研究授業



認定証授与式



自閉症児者のためのワークショップ

結果と反省

- 障害の特性を把握することができたため、教育課程の見直しの必要性が出てきた。
 - 受身的な「ワークショップ」から実践・参加型の積極的な、質の高い「ワークショップ」の開催に努めるようになった。(児童生徒の実態に応じた教材づくり、指導内容や方法の検討、個別の指導計画の活用)
-

重度重複障害児・者施設における ワークショップ



ジャマイカの養護教育に対する意識調査の実施 (養護教育関係者・保護者対象)

- 1 設備や教材の不足
- 2 教育課程の見直しの必要性
- 3 教育関係者との連携が不十分
- 4 重度重複障害児者への支援が不十分

「プロジェクト デザイン マトリックス(PDM)」の作成 (添付資料)
(Project Design Matrix about Special education in Jamaica)

今後の支援の方針を隊員で検討し、JAMR、そして国際協力機構事業団(JICA)の再検討のもとPDMを作成した。

今後のジャマイカ養護教育への支援

- 1 継続したワークショップの開催を通して、教材のアイデア提供、環境や設備の構造化を図ること。
 - 2 障害の特性を把握した教育課程について、見直し、検討すること。
 - 3 隊員や中心となるジャマイカの教育関係者がチームを組んで地方に出向いて「ワークショップ」を開催すること。
 - 4 首都に養護教育の専門家を派遣し、常にJAMRや教育省と連携し、さらに重度重複障害児者への支援にも取り組んでいくこと。
-

協力隊に参加して・・・



- ・日本から海外に出てみて感じたこと
- ・日本とジャマイカの養護学校を比較して考えたこと
- ・これから、どんな活動を日本で取り組んでいきたいか？

ありがとうございました！

